


Fox Letter for Teens

ミュージアムへ行こう!!



ちょっと…コラム～
こちら編集部 

「モノ」を見るとはということか？

あなたはミュージアムによく行きますか？

この本では、ミュージアムの起源、そもそもの原型、なぜ人はモノを収集するのか、ルーブル美術館や大英博物館、スミソニアン博物館、日本のミュージアムなどのそれぞれの成り立ちについてのほか、ミュージアムの存在は私たちに何をもたらすのか、ということについても語られています。

「モノ」を見ることを通して自分や他者を知る、世界が広がる、読んで楽しい一冊です。

ぜひ本書を読んで、ミュージアムへ出かけてみてください！

きっと今までと違う新たな発見ができるはずです。



『ミュージアムを知ろう』

横山 佐紀／著

ペリかん社



マニアにはたまらない！ディープな世界

ようこそマニアック博物館へ！この本では、京都・大阪・神戸エリアにある、専門分野に特化した博物館・資料館を紹介しています。ふぐのことがらおまかせ！「ふぐ博物館」、世界各国のつまようじはこんな形！「つまようじ資料室」など、きっとみなさんの「マニア心」をくすぐる博物館に出会えること間違いなし！



『京都・大阪・神戸マニアック博物館』
町田 忍／監修
メイツ出版

鉄道推しじゃなくても楽しめる

全国に多々ある鉄道博物館の中から3大鉄道ミュージアムを紹介。館内のまわり方やアドバイス、展示車両の説明、グルメにお土産など、また周辺スポットも紹介しています。京都鉄道博物館は、鉄道の仕事を体験できるコーナーもあり、鉄道ファンでなくても楽しめるスポットです。JR「梅小路京都西駅」を降りると目の前に！近くには、京都水族館もある京都鉄道博物館へ行ってみませんか。



『るるぶ鉄道ミュージアムに行こう!』
JTBパブリッシング

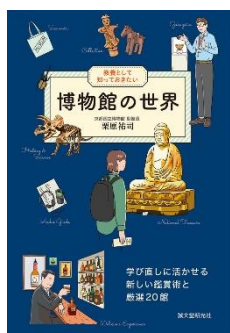


“博物館オタク”から学ぼう！

本書では、京都国立博物館の副館長であり、国内6300館以上、海外も含めれば1万館以上のあらゆる館種の博物館を訪問した専門家が、博物館についての鑑賞法を伝授しています。

そのほか、来館者のための動線の確保や資料保存のための管理など、博物館の運営についても書かれています。

京都国立博物館のひみつについても書かれているので、ぜひ読んでみてください！



『博物館の世界』
栗原 祐司／著
誠文堂新光社

ご存じですか？企業ミュージアム

世界的な企業から名企業まで日本には自社活動を紹介したミュージアムが1000にも及びます。本書では、「ここは特に行ってほしい!!」編集部推薦のトヨタ博物館・東芝未来科学館・資生堂企業資料館・東証 Arrows・TOTO ミュージアム・ワタミ夢ストリートの6ヶ所のほか106ヶ所を紹介しています。企業の歴史がズバリわかる！写真が豊富で見えて読んで楽しい一冊です。



『行きたい！企業ミュージアム』
イカロス出版

※東芝未来科学館は、2024年6月29日まで一般利用者にも公開されていましたが、現在は顧客やパートナー企業などの見学に限定されています。

知らなかった美術館の舞台裏

展覧会。来てよかった！と思うときもあれば、期待外れでがっかりなんてこともありますよね。そんな展覧会はどのように作られているのでしょうか？本書は現役の学芸員が美術館の舞台裏を本音をまじえて語ります。学芸員の仕事範囲の広さ、こだわりや葛藤など、しんどそうだけれどおもしろそう。美術館を応援したくなる一冊です。



『学芸員しか知らない 美術館が楽しくなる話』
ちいさな美術館の学芸員／著
産業編集センター

ミュージアムとのかかわり方を考える

ミュージアム愛好家の著者が、ある高校生と旅に出て、ミュージアムで働いているかどうかにかかわらず、さまざまな立場・役割・職業の人たちに、ミュージアムとのかかわり方をたずねます。ミュージアムとはみなさんにとってどんな存在か、そしてそれとどうかかわっていきたいかを考える上でのヒントが得られる一冊です。

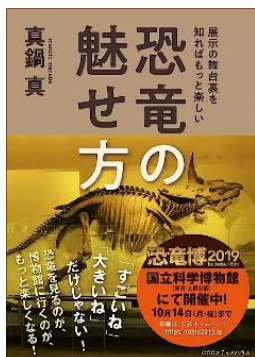


『ミュージアムと生きていく』
大澤 夏美／著
文学通信



恐竜をもっと好きになる

地球上で1億600万年以上も繁栄し、約6600万年前に突然大量絶滅した恐竜。その恐竜学は新しい発見によって日々書き替えられています。国立科学博物館でほぼ3年毎に開催される「恐竜博」を長年監修する著者が、展示を裏で支える様々な分野の人々の話を交えながら、恐竜の魅せ方から、今後の注目点までを解りやすく紹介します。



『恐竜の魅せ方』
真鍋 真／著
CCC メディアハウス

ニセモノに価値はないのか？

ニセモノを指す言葉には「偽造」「模倣」「複製」「復元」など、たくさんの言葉がありますが、その違いはわかりますか？この本では、ニセモノがつくられたのにも背景があり、それを紐解くと意外な歴史が浮かび上がってくることを教えてください。美術館や博物館で目にする展示品の見方が変わるかも。



『ニセモノ図鑑』
西谷 大／編著
河出書房新社

高校生が水族館を運営！？

愛媛県大洲市にある「長高水族館」。そこは、愛媛県立長浜高等学校「水族館部」の生徒が運営する水族館。毎月第3土曜日に無料で一般公開しており、愛媛県近海の海の生き物を飼育展示している。水族館部の生徒が解説をしてくれたり、ハマチの輪くぐりショーやイベントも部員が企画しているという。その実在の水族館と部員たちのアツイ活動を小説に！



『長浜高校水族館部！』
令文 ヒロ子/文
紀伊 カンナ/絵
講談社

生き物の命をつなぐ場所

足を痛め陸上部を休みがちな中学3年生の千里は、閉園間近の動物園を訪れます。そこで出会ったチーターの剥製は、ぶくぶくしていても俊足には見えません。そんなチーターの姿に自分を重ねた千里は、剥製の修復作業を行っている博物館を訪ねます。死んだ生き物を展示するのはかわいそう？自然史博物館への理解が深まる1冊です。



『ぼくたちの骨』
樫崎 茜/著
講談社

くらべてみるとおもしろい！

小さなうさぎの女の子が、初めて美術館へ行くお話です。単純な線とブルーナカラーとも呼ばれる「赤・黄・青・緑・茶・グレー」の原色で描かれた絵本。小さなうさぎの女の子の本名は、オランダ語で「ニンチェ」。「うさちゃん」という意味なのですが、日本では「ミッフィー」「うさこちゃん」と呼ばれています。それは、英語訳と日本語訳、出版社の違いだとか。訳者も違うので読み比べてみると面白いかも。



『ミッフィーのたのしいびじゅつかん』
ディック・ブルーナ/さく
かどの えいこ/やく
講談社

『うさこちゃんびじゅつかんへいく』
ディック・ブルーナ/ぶん・え
まつおか きょうこ/やく
福音館書店



Illustrations Dick Bruna (c) copyright Mercis bv, 1953-2024 www.miffy.com



Next 本

これまで紹介した本よりも読み応えのある本を2冊ご紹介します。
まだ物足りないあなた、こちらどうぞ！

町田久成って誰？

明治時代、日本初の博物館建設に奔走した一人の男がいた。その名は、町田久成。旧薩摩藩士で官僚の久成は、文明開化のもと新しきを良しとする風潮の中で、日本の古い宝を守り抜くという熱い思いを胸に、様々な苦難を乗り越えていく。大久保利通、島津久光、岩倉具視といった要人との人間模様も見どころの歴史小説。



『小説日本博物館事始め』
西山 ガラシャ/著
日本経済新聞出版社

さわるとわかる、わかるとかわる！

博物館の展示物は触ってはいけないもの！？そう思い込んでいませんか？ユニバーサル・ミュージアム＝誰もが楽しめる博物館を目指し、「さわる展示」を企画した盲目の著者。開催が迫る中、無情にも新型コロナウイルスの嵐が吹き荒れて…。触ることの奥深さ、可能性を教えてくれる一冊。



『世界はさわらないとわからない』
広瀬 浩二郎/著
平凡社